

# デーリー東北

2022年(令和4年)9月25日(日曜日) (15)

## 東北民謡を自動譜面化の八工大

### 岩手県に100曲分寄贈

八戸



自動採譜装置を開発した小坂谷壽一教授（左）と楽譜を披露する坂本禎智学長（左から2人目）、村上弘所長（同3人目）

八戸工業大は21日、

同大学院の小坂谷壽一教授が開発を手がけた自動採譜装置で作成した、東北地方などの民謡の楽譜約100曲分を岩手県立総合教育センターに寄贈した。青森県外の教育機関への提供は初。

小坂谷教授は、2009年から三味線の演奏を自動で譜面に起こす装置について研究。口承で伝えられてきた民謡を譜面化し、これまでに約120曲分を西洋譜などにまとめた。

楽譜の寄贈は16年の青森県総合学校教育センター、21年の八戸市教委に続いて3カ所

目。同大で行われた贈呈式では、坂本禎智学長が、岩手県立総合教育センターの村上弘所長に「岩手節」など岩手の20曲を含む楽譜を手渡した。

坂本学長は「伝統文化の継承と人材育成の支援につながる」と活用に期待。小坂谷教授は、長年の研究で作成する楽譜の正確性が高まったことを挙げ、「今では採譜率が98%で、ここにあるのは100%。自信を持って贈ることができると胸を張った。

村上所長は、小中高の教員向け研修などで紹介する考えを示し「地域文化を後世に伝える上で、大きな役割を果たす」と感謝した。

同大では、ほかの東北地方の各県にも順次、楽譜を贈る予定だ。（金澤一能）

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。